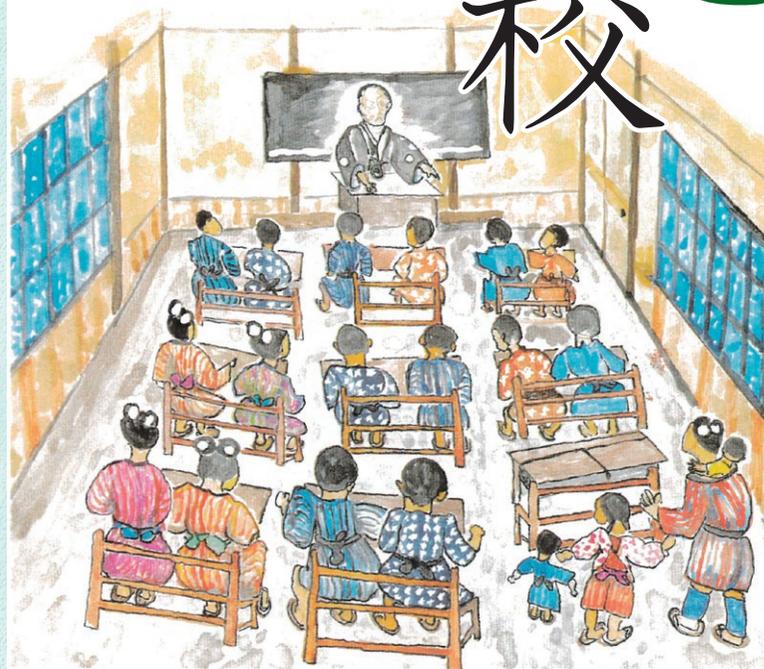


# 北海道移住民

# 学校と

著 ● 坂本紀子  
SAKAMOTO Noriko



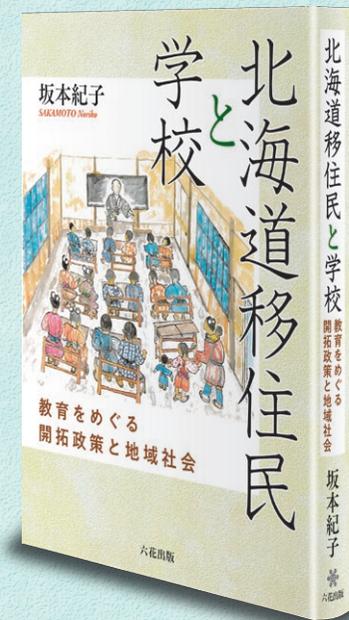
教育をめぐる  
開拓政策と地域社会

A5判・上製320ページ  
定価5,800円+税(税込6,380円)  
ISBN978-4-86617-262-0

電子書籍版も同時刊行!

詳細は弊社HP電子書籍の案内ページをご覧ください

2024年  
12月刊行!



開拓政策により移住する人びとが急増した北海道では、行政によって移住民に対して府県とは異なる教育政策が展開された。過酷な環境下で地域社会を築く移住民の生活実態と、相克する開拓政策・「簡易」「実用」的な教育制度と学校のかたちとは。

近代北海道の教育史を移住民たちが営んだ生活の視点から捉えなおす

## 生活実態からまなざす「殖民地」北海道の教育史

第二類尋常小学校、簡易教育所、特別教授場……。近代の北海道では「殖民地」特有の地方制度のもとで、独自の教育施設が設けられた。地域の生活実態とのかかわりに着目しながらその成り立ちと変遷を追った本書は、

一九〇〇年の小学校令改正により初等教育機関が尋常小学校に統一されて単線化されたという通説的理解を覆したばかりではなく、アイヌ民族への教育や台湾・朝鮮で行われた教育にも共通する、「簡易」「実用」を旨とする学校種別がたぶん到场当たりの、相互に微妙な格差をはらみながら設けられたことを明らかにした。

移住民は地域社会の協同性を形づくる核として学校を求めたが、道庁は開拓政策と資本の利益を優先して学校教育を後に回しがちであった。そのために創設当初

の校舎は藁屋造の平屋も少なくなく、とりわけ散居型の農村では、子どもたちは雪のなかや雨のなか、野生動物と遭遇する不安を抱えながら長い道のりを通わなければならなかった。

戦争中には朝鮮人労働者、戦後食料難の時代には樺太、千島、国後島、「満洲国」などからの引揚者を受け入れられるなかで、学校のかたちが変わっていったところまで論じられている。

徹底してローカルな世界に視座を据えることにより、異文化・異民族・異言語が混在し葛藤する状況を浮き彫りにした本書は、既存の教育史学のみならず、日本史学一般、さらには「殖民地」研究への重大な問いかけとなっている。

(こまごめ・たけし 京都大学)

推薦します 駒込 武

序章 本書の課題と構成  
第1節 問題関心と本書の対象  
第2節 先行研究と本書の位置  
第3節 本書の課題と視座・方法

第I部 北海道における「開拓」の拡大・移住者召募の展開と教育―「簡易」制度の拡がり（二八八〇年代後半～一九二〇年前後）

第1章 北海道庁設置直後の教育政策と地域の実態  
第1節 北海道庁による「開拓」政策の転換と小学校  
1 北海道庁の教育方針／2 北海道庁の教育規程・教則  
第2節 小学簡易科設置の実態  
1 小学簡易科の設置と維持・運営／2 小学簡易科の社会的機能  
第3節 尋常高等小学校設置の実態  
1 尋常科および高等科設置の過程／2 尋常高等小学校設置の実態

第2章 一八九五年制定の北海道の初等教育規程と子どもの通学空間  
第1節 一八九〇年代における「開拓」政策の展開  
教育に関する諸規程  
1 「市制町村制ヲ施行セサル地方ノ小学教育規程」の実施／2 「修業年限指定標準」と「小学校設備心得」

第3章 野幌移住民の小学校設立過程  
第1節 渡道するまで  
1 移住民の勧誘／2 移住の決意  
第2節 瑞雲寺と「教育場」の設置  
第3節 尋常小学校の設立過程  
第4節 地域の実態  
1 浜益郡茂生村の教育費負担／2 黄金小学校の設置

第4章 「簡易教育規程」制定・施行の背景と地域の実態  
第1節 「簡易教育規程」の制定・施行と就学率  
1 「簡易教育規程」とは／2 「簡易教育規程」と就学率の推移  
第2節 「簡易教育規程」の改正と簡易教育所の設置  
1 「簡易教育規程」の改正／2 簡易教育所設置の条件  
第3節 簡易教育所の実態  
1 網走郡美幌村外五箇村／2 空知郡富良野村／3 浜益郡浜益村黄金村組合

第5章 産業構造転換期の初等教育機関(1)  
鉄鋼業地域および石炭鉱業地域  
第1節 北海道鉱工業の概況と初等教育機関  
第2節 鉄鋼業地域  
1 室蘭の初等教育機関の設立状況／2 教育財政  
第3節 石炭鉱業地域  
1 歌志内の初等教育機関の設立状況／2 初等教育機関の実態  
／3 教育財政

第II部 北海道における産業構造の転換と初等教育（一九二〇年前後～一九三〇年代）

第6章 産業構造転換期の初等教育機関(2)  
農業地の実態と教育機関の格差構造  
第1節 北海道農業の概況と初等教育機関  
第2節 農業地

第3節 芽室村の初等教育機関の設立状況／2 斜里村の初等教育機関の設立状況  
1 教育勅語謄本と御真影からみる教育機関の格差構造  
2 御真影奉置所／2 教育勅語謄本および御真影下付の実態  
3 支庁長市長会議における北海道庁の「指示」

第7章 北海道庁による「許可移民」制度の導入・展開と「愛郷心」の涵養策  
第1節 郷土教育と開拓政策―「北海道小学郷土読本」の内容をとおして  
1 郷土読本について／2 「北海道小学郷土読本」の編集方針  
2 郷土読本の内容と子どもたちに求められたもの  
1 「寂しくない」／2 北海道の「愛郷心」  
第3節 「許可移民」と学校  
1 「第二期拓殖計画」下の「許可移民」／2 初等教育機関の設置維持  
第4節 標茶村の阿歴内および虹別の実態  
1 阿歴内／2 虹別

第III部 戦時下および敗戦直後の北海道における移住者・引揚者にとっての学校（一九三〇年代～一九五〇年代）  
第8章 一九三七年から一九四五年までの北海道の教育  
第1節 「国民学校令」と「国民学校令施行規則」  
第2節 農業・牧畜業における教育の実態(1)  
1 単級学校へのまなざし／2 単級学校の実態  
第3節 農業・牧畜業における教育の実態(2)  
第4節 石炭鉱業地における教育の実態  
1 炭山・鉱山地の錬成／2 朝鮮人労働者の子どもの教育

第9章 引揚者と学校(1)―都市部の引揚児童に着目して  
第1節 日本政府および北海道庁の対応  
1 政府の対応／2 道庁の対応  
第2節 引揚児童の生活環境  
1 住環境／2 引揚児童の労働と授業の長期欠席  
第3節 学校の設立  
第4節 引揚者と学校(2)  
―農業および漁業地における学校設置と地域形成

第10章 引揚者と学校(2)  
―農業および漁業地における学校設置と地域形成  
第1節 引揚者の職業状況と教育規程  
1 枝幸郡枝幸町山白地域 樺太引揚者による学校設置  
第2節 徳志別小学校山白分校の設置／2 山白小学校と地域社会の形成  
第3節 奥尻町湯浜神威脇地域 国後島引揚者による学校設置  
第4節 1 奥尻国民学校神威脇分校の設置／2 神威脇小学校と地域  
2 標茶町上多和地域 満洲国引揚者による学校設置  
3 標茶小学校弥栄分校の設置／2 弥栄小学校と地域

結 章 本書のまとめ  
第1節 総括  
第2節 残された課題  
あとがき

著者紹介  
坂本紀子(さかもと・のりこ)  
一九九八年 早稲田大学大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学  
二〇〇一年 博士(文学)  
北海道教育大学教授を経て、現在、聖徳大学教授

●弊社には注文制です。お近くの書店へご注文ください。お急ぎの場合は小社に直接ご連絡ください。電話03(32693)8787 Fax03(32693)8788 電子メール info@rikka-press.jp

発行 六花出版 著 坂本紀子

北海道移住民と学校  
教育をめぐる開拓政策と地域社会

定価 六、三八〇円(税込)  
ISBN978-4-86617-262-0

注文カード

帖合・貴店名

（八木書店経由）

注文数

お名前

お電話番号

注文 年 月 日